

「家がいいね」 第219号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2022. 8. 1

暑さの中「自愛ください」



暑中お見舞い申し上げます。
立秋の7日が過ぎれば、残暑へ。
雷と驟雨に、驚かされ続けです。
季語では、雷は夏、稲妻は秋だ
そうですね。稲光にも稲が付く
のは、収穫と深く関わるからで
しょう。そう、秋も近づきます。

コロナをかかえて、盆踊りかな



私の故郷、郡上八幡の盆踊り風景。この写真、コロナ禍の前の賑わいです。今年3年ぶりに規模を縮小で再開し、徹夜踊りも早々に終える予定とか。曲目の「かわさき」は伊勢音頭の流れを組みます。観光集客のために保存活動をしているせいか、町内ごとの供養の意味から縁遠くなったものです。

満州開拓団から戻った祖父が、暗い寺の境内で
少ない人数で踊る白黒写真があります。撮影者は
戦地から戻った父親なのでしょう。盆供養を言葉
少なにするのが、生き残った者の務めの姿でした。

コロナと向きあつのは、生き方そのもの

権力を振りかざしての隔離は、破綻しています。
かと言え、流行を見なかったようにふるまうのも、
間違いです。弱者への細かな対応が必要なのは今。
「私は話を聞く」と言った人はどこに行った？
診断よりも治療、治療よりもケア、が望まれます。

頑是(がんぜ)ない歌

中原中也 1937年

思えば遠く来たもんだ
十二の冬のあの夕べ
港の空に鳴り響いた
汽笛の湯気は今いずこ
(中略)
今では女房子供持ち
思えば遠く来たもんだ
此の先まだまだ何時までか
生きていくのであろうけど

生きていくのであろうけど
遠く経て来た日や夜の
あんまりこんなにかいしゆては
なんだか自信が持てないよ
さりとして生きてゆく限り
結局我ン張る僕の性質(さが)
と思えばなんだか我ながら
いたわしいよなものですよ
(後略)

「汚れっちまった悲しみに」で知られた中原は、
結核性脳炎のため三十歳で亡くなりました。この
詩集が遺作となり、二人の息子も幼くして亡くし
ています。「**幾時代かがありました** 茶色い戦争
ありました」で始まる「サーカス」と言う詩では、
ブランコの逆さ乗りのような気分です。今の時代
に共鳴します。 **ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん**

百日紅(サルズベリ)は、強いなあ

夏の陽を歓迎するように
街路に咲くのは健気ですね
約3ヶ月間、咲き続ける
ように見えるので、百日の
命名になったと言われます。

炎天の
地上花あり **百日紅**
(高浜虚子)



お盆期間の休み
8月13日(土)〜15日(月) お休みします。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御薊町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可